

防災意識の変化と防災教育

山 本 和 彦

YAMAMOTO Kazuhiko

千葉県立船橋高等学校

【キーワード】地学教材, 防災教育, 意識調査, 地震

1 はじめに

筆者は, 生徒の地震に対する意識をある程度把握した上で授業をすることが大切だと考え, 1995 年兵庫県南部地震後, 地震に関する意識調査を生徒に実施し, それにもとづいて授業を実施するようにしている。

兵庫県南部地震後の意識調査では, 授業時に被災した生徒への配慮が不可欠と感じた。東北地方太平洋沖地震(2011)は, ほとんどの生徒が体験しており, 身近な教材と考える。そこで, 今回, 以前(1)と同じ項目も含めて意識調査を実施し, その変化を比較した。また, 教材化の観点についても考察した。

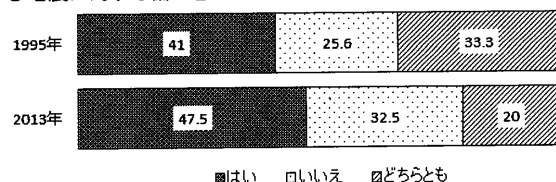
2 意識調査

18 年前と同じ項目も含め, 知識よりも意識の度合いを調査する目的で, 質問紙による意識調査を実施した。

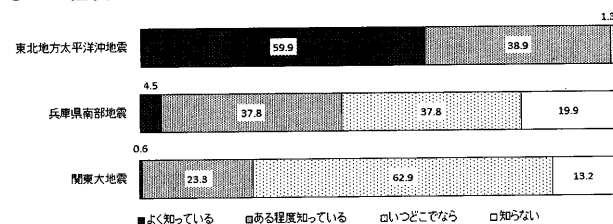
3 結果

2011 年の地震は生徒が中学生であり, よく覚えている。そのことから, 地震の怖さや地震に対する備えが, 以前よりも高かった。

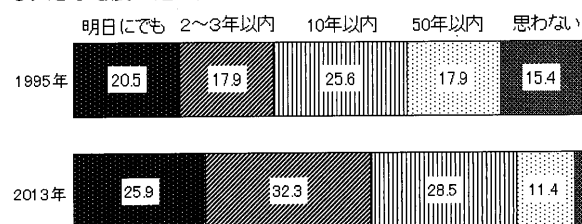
○地震に対する備えをしていますか



○どの程度知っていますか



○大きな地震が近々起きると思いますか



4 考察

地震に対する備えについての考え方は個人差があるものの, 前回よりも防災用品を備蓄する傾向が見られた。地震に関する知識の多くをテレビで得ることはさほど変化していないが, 「市や警察」からという割合が次に高かった。防災意識の高まりとも考えられる。

地震災害も, 時間の経過とともに忘却されてしまう傾向がある。その意味でも, 今こそ学校教育の場で, 地震を扱っての防災教育が必要と考える。身近で生きた教材となるものとする。

5 まとめ(教材化について)

地震や火山噴火が発生した際には, できる限り現地に赴き視察するように心がけている。2011 年の地震では, 京葉地域の液状化を調べ, 半年後から東北地方の地震と津波の災害を視察するとともに, 被災からの復興状況を見つめてきた。写真や現地での聞き取りを授業に取り入れることが, 「タイムリーで身近な教材」となるものと考えている。その際に, 被災した人々への配慮した教材となるよう心がけることが大切であるとする。

参考文献

- 山本和彦・米澤正弘・橋本昇・加瀬靖之・鈴木芳之助 (1998)『意識調査から見た防災教育』千葉県地学教育研究会会報 pp 20-28